

軽防協ニュース速報 号外

2008年12月19日

軽種馬防疫協議会 事務局

(JRA 馬事部防疫課)

米国（ケンタッキー州）における馬伝染性子宮炎の発生について

2008年12月16日、米国農務省より、馬伝染性子宮炎の発生について報告があった。2006年に東欧州から米国へ輸入された2頭のLipizzaner種馬でCEM感染が確認された事例を除くと、米国でのCEMの発生は1997年以来である。今回の発生について、以下に詳細を述べる。

2008年12月10日、ケンタッキー州中央部の牧場に繋養されていた16歳のクォーターホース種牡馬において、CEMの発生が確認された。今回の検査は、同馬の冷凍精液をEUへ輸送するための予備検査としてケンタッキー大学の家畜疾病診断センターで実施され、CEMの原因菌である*Taylorella equigenitalis*が分離された。さらに同検体はアイオワ州エイムスにある国立獣医学研究所へ送付され、確定診断が下された。

感染馬は、種牡馬となって以降はテキサス州で繋養されており、2008年2月にケンタッキー州へと移動していた。これまで自然交配歴はなく、全ての種付けは人工授精で行われていた。2008年の種付けシーズンには、様々な州から来た22頭の種牡馬（感染馬を含む）がこの牧場で種付けを行っており、そのうち13頭の種牡馬は他の州へ移動し、1頭はケンタッキー州の他の牧場に移動していた。感染馬の精液は、計44頭の牝馬に対して人工授精により種付けされており、その一部の牝馬は輸送精液を用いて他の牧場で種付けされていた。

現在、感染の可能性のあるすべての馬に対して隔離措置が取られ、CEMの確認検査が実施されている。

参照 HP

(TheHorse.com News) <http://www.thehorse.com/ViewArticle.aspx?ID=13281>

(TheHorse.com News) <http://www.thehorse.com/ViewArticle.aspx?ID=13279>